

# 風土記の丘の花だより<sup>274</sup>

今、そしてこれから見られる植物 (2025年5月24日)

はやいもので、もう梅雨の走りのような天気が続いています。体調管理に気を遣う季節になってきました。蒸し暑さを少しでも和らげるために、今回は白い花を紹介します。



その名も涼しげなユキノシタです。5枚の花びらのうち上3枚は小さく、赤い模様が入り、下2枚は真っ白でやけに大きくて実にアンバランスな花です。旧小早川家住宅の南西隅のミョウガの根元に生え広がっていましたが、今年はなぜかごくごく少なくなってしまっています。ランナーを伸ばして、そこから小さな株が生え、どんどん広がって行きます。昔は井戸の周りなど、湿気のある所によく生えていました。聞くところによると、山菜として食べられるそうですよ。



透き通るような白さが美しいネジキの花が咲き始めました。スズランみたいな花ですがツツジの仲間です。ネジキの木の樹皮は捻っています。それで捻木なのです。とても分かりやすく、覚えやすい名前です。落葉樹で冬は葉がありませんが、春先に伸びる新芽は真っ赤で、とてもきれいです。それで盆栽にされる方もおられるようです。これは万葉植物園で撮った写真ですが、園路を歩けば、あちこちで見ることができます。白い花が2つ続きました、3つめも白でいきましょう。



この風車みたいな花はテイカカズラです。他の木やフェンスなどに巻き付いて伸びるつる植物です。甘くいい香りがします。テイカとは、かの有名な藤原定家（ふじわらのていか）のことです。好きな女性が亡くなった後も恋慕い、つる草となって、墓石に巻き付いたという言い伝えが残っている植物です。でも、つるが細く、巻き付いて絞め殺すほど、頑丈な植物ではありません。花がよく地面に落ちています、風車みたいな花をじっくりご覧ください。



この花は真っ白ではありませんが、姿が涼しげなので、紹介します。クサナギオゴケの花です。通常のクサナギオゴケは茶色っぽい色ですが、これはシロバナクサナギオゴケと呼ばれるものです。万葉植物園に入って左の大きなネムノキの下に一株だけあります。かつてどなたかが植えてくださったのでしょうか。星のような形のたくさんの花が、細く伸びたつるに付きます。それにしても難しい名前ですね。漢字では「草薺尾苔」と書くそうですが、どんな意味かはわかりません。

松下